

平成28年度消防団員等公務災害補償の概要

(災害補償課)

平成28年度における損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額について、その概要を紹介します。

1 平成28年度における損害補償費等支払状況

平成28年度の損害補償費の支払件数は2,255件で前年度に比べて1件(△0.0%)増加し、支払額は1,794,503千円で同25,419千円(△1.4%)減少しています。

また、福祉事業費の支払件数は943件で前年度に比べて46件(△4.9%)減少し、支払額は400,512千円で同66,290千円(△16.6%)減少しています。

(1) 損害補償費

支払件数について種類別にみると、療養補償が1,352件(損害補償費全体の60.0%、前年度比+38件(+2.8%))と最も多く、次いで、遺族補償の627件(同27.8%、同△11件(△1.8%))、休業補償の137件(同6.1%、同△24件(△

17.5%))の順となっています。なお、この3種類で損害補償費全体の93.8%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族補償が1,273,456千円(損害補償費全体の71.0%、前年度比△25,423千円(△2.0%))と最も多く、次いで、療養補償の252,222千円(同14.1%、同+10,814千円(+4.3%))、障害補償の208,746千円(同11.6%、同△1,968千円(△0.9%))の順となっています。なお、この3種類で損害補償費全体の96.7%を占めています。

なお、平成28年度に支払った主な障害補償については、会議・説明会に出席するため自宅から会場へ大型二輪自動車で移動中、前を走行していた自動車が急ブレーキを踏んだため衝突を回避しようと右にハンドルを操作したところ、車線をはみ出してしまい、対向車線を走行する自動車と正面衝突し、その後遺障害として1下肢を膝関節以上で失ったものなどがあり、また、主な遺族補償(死亡事案)については、火災発生に伴う出場途上に動悸・胸苦しさを自覚

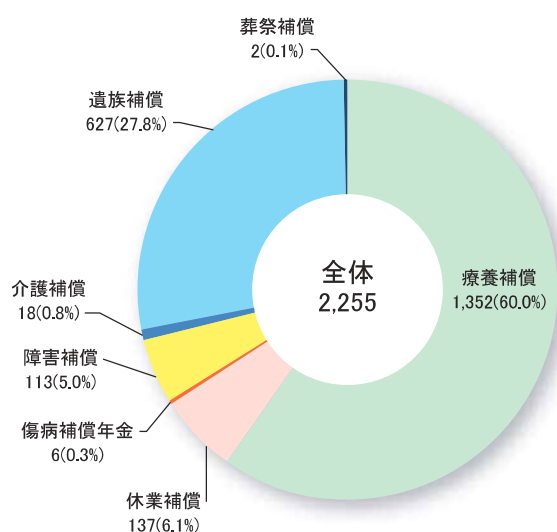


図1 損害補償費支払件数 (単位: 件 (%))

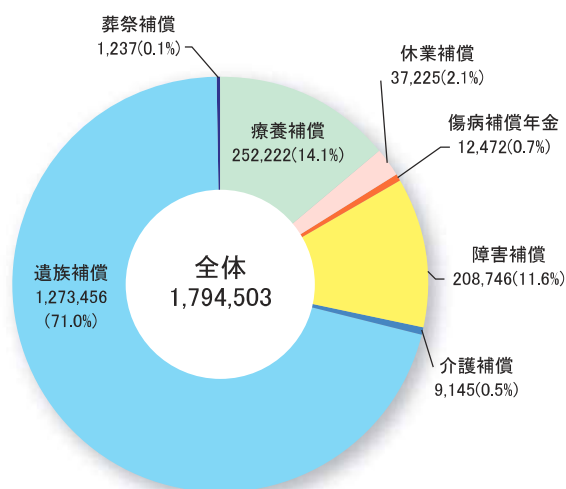


図2 損害補償費支払額 (単位: 千円 (%))

注 割合及び全体は、端数処理により一致しない場合がある(以下図において同じ)。

表1 損害補償費における対前年度増減比較

区分	増減		主な要因
	件数	金額	
療養補償	38	10,814	請求件数の増
休業補償	△24	△9,634	請求件数の減
傷病補償年金	1	324	受給者の増
障害補償	△3	△7,652	受給者の減
介護補償	△1	△190	受給者の減
遺族補償	△11	△25,423	受給者の減
葬祭補償	1	658	請求件数の増

し、消防活動終了後、詰所からの帰宅途上で自分の自転車の下敷きになり仰向けに倒れているところを発見され、虚血性心疾患による死亡と確認されたものがありました。

(2) 福祉事業費

支払件数について種類別にみると、遺族特別給付金が539件（福祉事業費全体の57.2%、前年度比△10件（△1.9%））と最も多く、次いで、休業援護金の135件（同14.3%、同△20件（△14.8%））、障害特別給付金の105件（同11.1%、同△4件（△3.8%））の順となってい

ます。なお、この3種類で福祉事業費全体の82.6%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族特別給付金が244,422千円（福祉事業費全体の61.0%、前年度比△7,326千円（△3.0%））と最も多く、次いで、障害特別給付金が43,634千円（同10.9%、同△95千円（△0.2%））、奨学援護金の38,555千円（同9.6%、同+292千円（+0.8%））の順となっています。なお、この3種類で福祉事業費全体の81.5%を占めています。

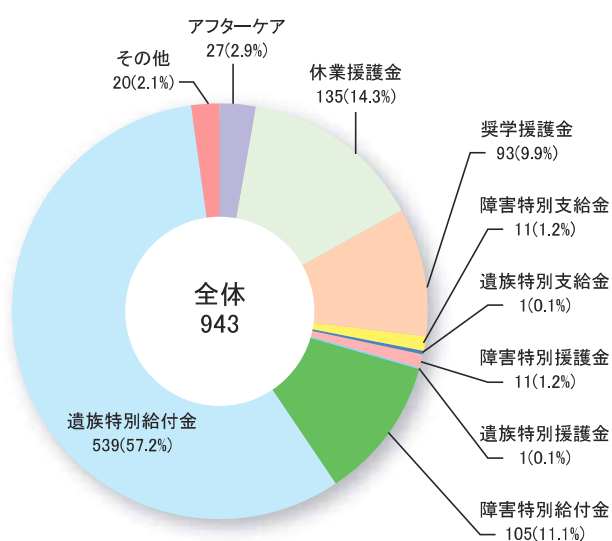


図3 福祉事業費支払件数 (単位：件 (%))

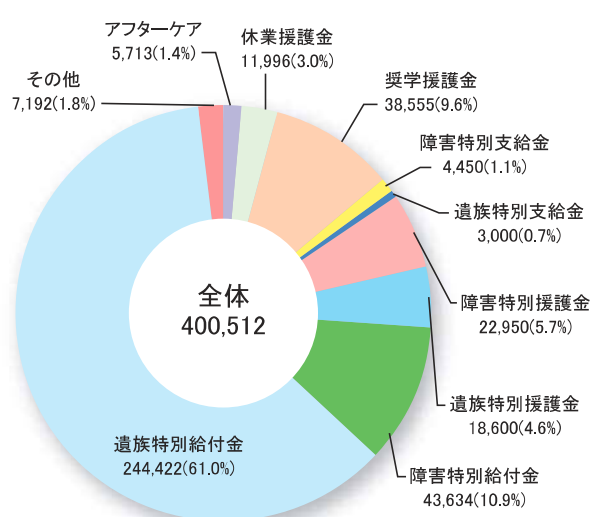


図4 福祉事業費支払額 (単位：千円 (%))

表2 福祉事業費における対前年度増減比較

区 分	増 減		主 な 要 因
	件 数	金 額	
補装具	△2	△1,352	請求件数の減
リハビリテーション	0	△80	請求単価の減
アフターケア	△1	1,032	請求件数の減
休業援護金	△20	△2,507	請求件数の減
奨学援護金	0	292	支給単価の増等
就労保育援護金	△2	△1,056	受給者の減
傷病特別支給金	1	1,000	請求件数の増
障害特別支給金	△4	△8,620	請求件数の減
遺族特別支給金	△1	△3,000	請求件数の減
障害特別援護金	△4	△27,200	請求件数の減
遺族特別援護金	△1	△18,600	請求件数の減
傷病特別給付金	1	231	受給者の増
障害特別給付金	△4	△95	受給者の減
遺族特別給付金	△10	△7,326	受給者の減
長期家族介護者援護金	1	1,000	請求件数の増
旅行費	0	△11	請求単価の減

2 最近5か年間における損害補償費等支払状況の推移

平成24年度から28年度までの年度毎の損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額の推移をみると、平成22年度末に発生した東日本

大震災の影響も薄らいできたため漸減傾向にあります。震災前に認められた、操法大会が行われる偶数年度に増加する傾向が再び認められるようになってきました。

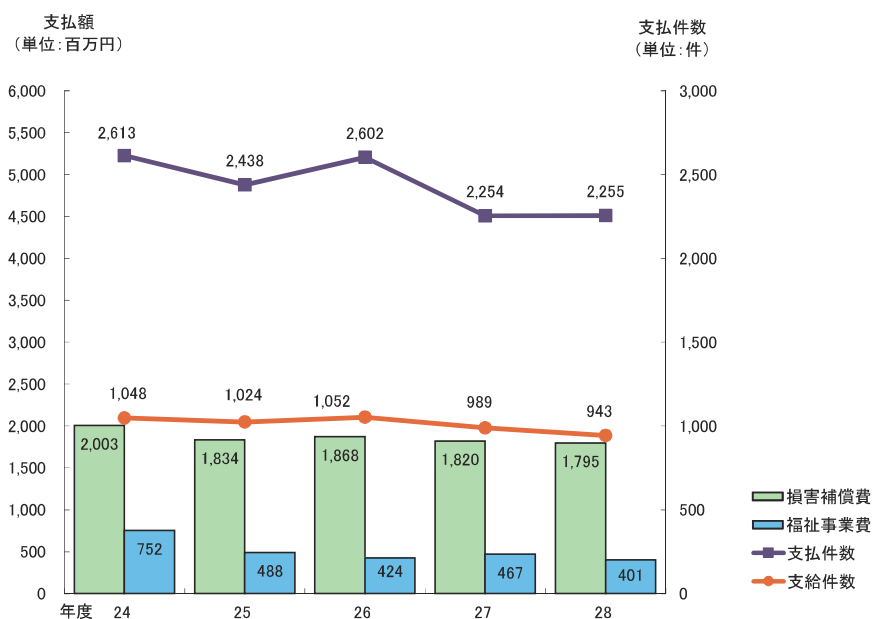


図5 最近5か年間の推移